

アジャイル型政策形成・評価の在り方に関する ワーキンググループの検討状況

○第1回を令和4年2月14日に開催。以下の認識等を共有。

- アジャイル型政策形成・評価は、政策形成・評価の新たな別個の類型として存在するわけではなく、より機動的で柔軟な見直しを行える政策設計をすることで、アジャイルの度合いが強くなっていくものと考えられるのではないかと。
- 政策を見直す「きっかけ」をより多く得られるようにするなどの政策形成・評価の質を高めるための環境整備が必要ではないかと。
- 政策形成・評価に関連する制度であるEBPM、政策評価制度及び行政事業レビューについて、三者の重複感や各府省庁に生じている負担の解消の観点から、三者の関係の整理・再編が必要ではないかと。



次回以降

改善・提案型の政策形成に係るレビューを試行的に実施

- ・各府省庁の政策形成・評価を支援する観点から、具体的な事例に基づき、各府省庁の政策担当者と本WGが協働して、より機動的で柔軟な見直しを行える形での政策形成とそれに必要なデータ利活用環境整備について議論を行う
- ・政策形成・評価に関する制度の問題点や課題の整理等を行う

今後の予定

- (令和4年3月・4月)
政策形成に係るレビューの試行的実施
- (令和4年5～6月目途)
とりまとめ、デジタル臨調へ報告

＜政策形成・評価におけるアジャイル型のイメージ＞

